おかげさまで創業百三十五年 ホテルかずさや

135 ANNIVERSARY

ANNIVERSARY

日本橋―ホテルかずさや、おかげさまで創業百三十五年。

HOTEL
KAZUSAYA
SINCE 1891, NIHONBASHI

政府登録 ホテル かずさや
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-7-15
Phone:03-3241-1045 Fax:03-3241-1077
4-7-15 Honcho, Nihonbashi Chuo-ku, Tokyo 103-0023 Japan
https://www.h-kazusaya.co.jp/
e-mail web@h-kazusaya.co.jp

創業百三十五年を迎えるにあたり

明治二十四年（一八九一年）上総屋旅館として創業したホテルかずさやは、お陰様で令和八年創業百三十五年を迎える事になりました。これはひとえにお客様の暖かいご愛顧の賜物と深く感謝をささげる次第でございます。

初代工藤由郎は、信州の丸子（現長野県上田市）で工藤房輔と津多子の三男として文久三年（一八六三年）十二月二〇日に生まれ、この時代の有力な輸出商品でもある養蚕に関わり、絹製品の素となる蚕の卵を植付けた蚕紙を養蚕農家に販売し財を成したようです。その後、東京に進出し旅館を経営することを夢見て、明治二〇年に上京するも適当な物件が無く、明治二十四年に再度上京し探したところ、当時の上総屋旅館の亭主から宿の売却の話が持ち上がり、由郎二十七歳で故郷の財産を全て処分し買取りに応じ、以来今日迄宿泊業を営むことになりました。旅館を買収したのは明治二十四年ですが、旅館そのものはそれ以前からあり、多分江戸時代から続いて来たとも云われております。また、上総とは、現在の千葉県中部にあたる旧国名の一で、そこの出身者が起こしたものと云われております。

しかし、火災や関東大震災で被災し詳しいことは残っておりません。由郎は長野の出身ですので、信州とか信濃と云う名称を望んだようですが、その名の宿は既に存在しており止む無く上総屋の名称を引き継いだようです。いずれにしても、江戸の伝統を引き継ぎ、形は変わってもお客様をお迎えする宿泊業に携わって来れたことを慶びとし、未来に向かって皆様方にご愛顧頂けるホテルを目指し努力して参ります。二〇一八年五月、ホテルかずさやは新しい時代の要請に答える為、旧ホテルと隣接する商業ビルを取壊し、新ホテルの建替えを行い、二〇二〇年七月に新規開業致しました。残念ながら二〇二〇東京オリンピックはコロナの影響で延期、翌年も無観客試合の開催となりました。しかし、新ホテルかずさやは、従来の倍の客室と充実した付帯設備を備えて生れ変り、併せて伝統を引継ぎ日本橋ならではのホテルを目指して邁進しております。今後共、倍旧のご愛顧を賜ります様お願い申し上げます。

今回、百三十五年記念誌を発行するに当り、上総屋が深く関わって来ました日本橋本石町（現日本橋本町）に関する江戸の歴史を振り返りながら、この地の歴史を紐解いて参ります。皆様と共に、歴史の重みを噛みしめながら未来を望んで参りたいと思います。

令和七年九月吉日　代表取締役　工藤 哲夫

2020～

明治32年頃

ホテルかずさやと江戸文化の華を咲かせた「耕書堂」

ホテルかずさや付近には、常盤橋門より東へ延びる江戸一番の繁華街である本町通り（旧日光街道）がありました。この通りに面した「通油町」と呼ばれる所に、かつて「蔦重（つたじゅう）」の名で親しまれた蔦屋重三郎が店を構えた「耕書堂」がありました。「耕書堂」は単なる本屋では無く、出版も手掛ける版元として文化発信地であり、知識や芸術を広める拠点として大きな役割を果たしていました。

●国立国会図書館デジタルコレクション

●国立国会図書館デジタルコレクション

出版人・蔦屋重三郎とは

蔦屋重三郎は、その卓越した才覚と先見の明によって、江戸の中期から後期にかけて、江戸出版界において不朽の足跡を残した人物です。安永二年、吉原にて地本問屋として活動を始めた彼は、遊女の姿や評判を紹介する『青楼美人合姿鏡』を皮切りに、黄表紙、洒落本、狂歌、絵本、さらには浮世絵の中でも特に人気の高かった錦絵に至るまで、実に多彩な出版物を世に送り出しました。彼の出版物は、庶民の生活や風俗、文化を鮮やかに映し出し、大衆の支持を集めました。

天明年間には、日本橋本町通りに進出し、より広い層の読者を獲得。柔軟な発想と揺るぎない意志で革新的な出版を次々に手がけ、江戸出版界の発展を力強く牽引する存在となりました。

本町通り「耕書堂」での活躍

天明三年、蔦屋重三郎は吉原で築いた出版基盤をもとに、日本橋通油町・本町通り沿いの店舗を買い取り、江戸出版界の中心地へと進出しました。

この地域は老舗版元が軒を連ねる一大出版街であり、蔦屋重三郎はより広い市場と文化人との交流を求めてこの地に移転したのです。同時に地本問屋の株も取得し、耕書堂を本拠として活動を本格化させました。

太田南畝との縁から狂歌師「蔦唐丸（つたのからまる）」としても活動を始め、黄表紙や浮世絵の出版でも次々と成果を挙げ、蔦屋重三郎は一代で江戸を代表する大版元へと成長しました。

●国立国会図書館デジタルコレクション

蔦屋重三郎と江戸の文化人たち

蔦屋重三郎は、数多くの著名人と深い交流を持ちました。浮世絵師の喜多川歌麿や狂歌師の山東京伝とは親しい関係にあり、蔦屋重三郎が発行した出版物には彼らの作品が多く取り上げられています。また、文人や学者とも交流があり、蔦屋重三郎はその知識と教養を活かして江戸の文化を発展させました。相関図を通してそのネットワークの一端をご覧ください。

蔦屋 重三郎

版元・狂歌師

江戸時代の出版人・
浮世絵と文学を革新した
文化の仕掛け人

絵師・戯作者

東洲斎 写楽

蔦屋重三郎がわずか10ヶ月だけ売り出した謎の絵師。その正体には、さまざまな説があるが、第1期の役者大首絵は世界的に評価されている。

喜多川 歌麿

日本四大浮世絵師の一人。蔦屋重三郎が無名の時代から育てた。細部まで正確に描く写実性により「美人大首絵」を生み、数々の傑作を残した。

洒落本・黄表 紙依頼

山東 京伝

北尾政演として挿絵も 描く。吉原の風俗を描く「洒 落本」を得意とした。師ではなくよき相談役 として曲亭馬琴を育てた。

蔦屋に奉公

曲亭 馬琴

山東京伝の友人蔦屋の奉公人・読本作家「南総里見八犬伝」で知られる長篇物語作家。文筆業に憧れた元武士であり、蔦屋重三郎は彼の為に縁談も決めている。

十返舎 一九

「東海道中膝栗毛」によって大作家に。無職だったのを蔦屋重三郎が拾い、執筆・挿図・筆耕・版下をこなす奉公人に育てた。

狂歌仲間

朋誠堂 喜三二

その正体は秋田藩藩 士「宝暦の色男」として知られ、最先端の流行を発信した作家。吉原に多くの人脈を持つ。

大田 南畝

正体は幕臣、戯作者というより評論家として活躍。古典にも通じた文化人で、ベストセラー作家。

恋川 春町

最初の黄表紙「金々先生栄花夢」の著者であり、朋誠堂喜三二の盟友。寛政の改革の犠牲者となる。

絵 師

勝川 春章

北尾派と並ぶ流派、勝川派の創始者。美人画や役者絵で一 世を風靡。葛飾北斎は、彼 の弟子として絵師の道を歩 んだ。

葛飾 北斎

「冨嶽三十六景」などで知られる世界的な巨匠。勝川晴朗を名乗っていた頃、蔦屋重三郎は彼と関わる。曲亭馬琴の本の挿画で名をあげる。

北尾 重政

版元の家に生まれ、美人画に風景画に、子供向けの教科書の挿画にと多くの分野で活躍した絵師。北尾派を形成し、大勢の絵師を輩出した。

蔦屋重三郎が生んだ大首絵の天才たち

大首絵は、人物の顔や上半身を画面いっぱいに描く浮世絵の形式で、感情や個性を際立たせる革新的な表現でした。蔦屋重三郎は、この大首絵の普及に大きく貢献し、写楽の役者絵や歌麿の美人画を通じてその可能性を引き出しました。従来の浮世絵では人物の全身を描くことが多かったのですが、大首絵では表情や視線、髪型などに焦点を当てることで、感情や個性をよりリアルに表現できる〝ポートレート写真〟のような迫力で、当時の江戸庶民にも強い印象を与えました。

写楽、歌麿の大首絵は、その後の浮世絵や日本美術全体に大きな影響を与え、海外でも評価されています。蔦屋重三郎はまさにその「仕掛け人」でありました。

●Wikipedia

●国立国会図書館デジタルコレクション

美人画の歌麿

喜多川歌麿はもともと狩野派の流れをくむ絵師の弟子で、才能はあったものの若い頃はまだ無名でした。そんな彼に目をつけたのが、蔦屋重三郎です。歌麿の画才を見抜き、彼を自らの出版事業の中心絵師として育て上げました。

蔦屋重三郎は、歌麿に従来の「美化された理想の女性像」ではなく、日常の中にいるリアルで艶やかな女性たちを描かせました。これらの作品は、モデルの表情やしぐさ、髪型や衣装までもが繊細に描かれ、見る人々に新鮮な驚きを与えました。

●Wikipedia

役者絵の写楽

写楽が突然登場したのは寛政六年五月。そしてわずか約十ヶ月間の活動で姿を消します。この短期間に出版された作品は約百四十点にものぼりますが、すべて蔦屋重三郎の手によるものでした。

写楽の役者絵は誇張された表情や大胆な構図が特徴。舞台上の〝瞬間〟を鋭くとらえ、まるで生きているような迫力を持っていました。

●Wikipedia

●国立国会図書館デジタルコレクション

山東京伝と蔦屋重三郎

山東京伝と蔦屋重三郎の関係は、江戸中期の出版文化において重要な位置を占めます。京伝は上方出身の町人で、江戸に出てから洒落本や黄表紙の執筆を始めました。彼の才筆にいち早く注目したのが、版元の蔦屋重三郎でした。耕書堂から出版された『仕懸文庫』や『通言総籬』は、町人社会の風俗や人情を巧みに描き、大きな人気を博しました。

●Wikipedia

●国立国会図書館デジタルコレクション

初期の北斎

葛飾北斎は、若い頃に勝川春章（かつかわしゅんしょう）の門人となり、「勝川春朗（しゅんろう）」という画号で活動を始めました。この頃、主に役者絵や黄表紙の挿絵など京伝の作品に挿絵を提供することがありました。多岐にわたる北斎の絵が耕書堂から刊行されております。

彼の初期の作品は師匠である春章の画風に従った穏やかな表現で、後のダイナミックな構図や奇抜な発想とはやや異なります。

勝川春朗時代
安永9（1780年）

●国立国会図書館デジタルコレクション

北斎時代
天保2～5年
（1831～34年）

●国立国会図書館デジタルコレクション

耕書堂奉公記——曲亭馬琴

曲亭馬琴は若い頃、耕書堂で奉公しておりました。最初は雑務をこなしながら、次第に出版業に関わるようになります。蔦屋重三郎の影響を受け、馬琴は校正や書籍の編集に従事し、その文才が認められるように。

後に、『南総里見八犬伝』などの長編小説を執筆し、江戸時代の文学に大きな影響を与える作家となりました。耕書堂での経験が、彼の文学的基盤を築くきっかけとなりました。

●国立国会図書館デジタルコレクション

耕書堂奉公記——十返舎一九

曲亭馬琴が耕書堂を独立したあと、十返舎一九もまた、蔦屋重三郎のもとで奉公をしていました。この経験が、彼の後の作品作りに大きな影響を与え、出版業界にも精通することとなります。十返舎一九は、ユーモアを交えた社会批判を行い、その作品は江戸の庶民文化に深く根ざしたものとなりました。

十返舎一九の代表作、『東海道中膝栗毛』は、庶民の生活や習慣を鋭く描写しており、江戸時代の市井の風景や文化を伝える名作として、今日でも広く読まれています。

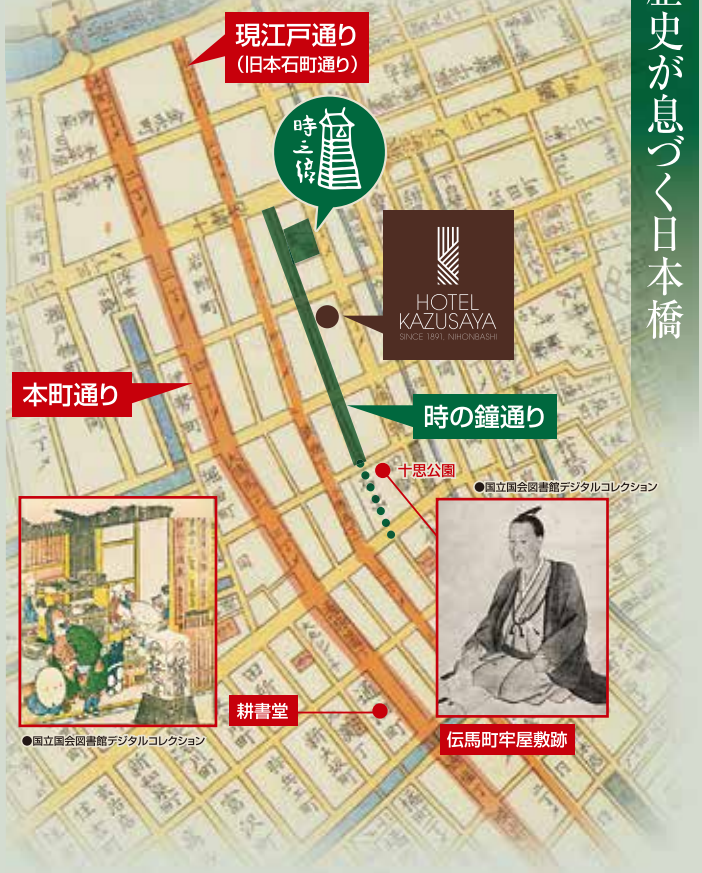
●国立国会図書館デジタルコレクション

ホテルかずさやと吉田松陰 ――歴史が息づく日本橋

ホテルかずさやの近くには、伝馬町牢屋敷跡である十思公園があります。そこは幕末の動乱期、安政の大獄で吉田松陰や橋本佐内、梅田雲浜等が収監され命を終えた場所です。

吉田松陰は、幕府の体制が揺らぎ始めた時代に、若者たちに情熱と思想を注ぎ込んだ教育者でした。彼が主宰した松下村塾では、後の明治維新を担う多くの志士たちが育ちました。

伝馬町牢屋敷は江戸時代最大の牢獄で、罪人の収容だけでなく、取り調べや処刑も行われた場所です。幕末には多くの志士がここに送られ、松陰もその一人でした。現在は公園として整備され、歴史を静かに伝えています。また石町の「時の鐘」も現在この公園に保存されております。



●国立国会図書館デジタルコレクション

●国立国会図書館デジタルコレクション

吉田松陰と松下村塾

吉田松陰が開いた私塾・松下村塾では、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文、山縣有朋らが学び、彼らの政治的・思想的形成に深く関わりました。松陰は知識の習得だけでなく、「志」を持ち行動することの重要性を説きました。その教えは弟子たちを通じて、近代日本の礎を築く原動力となったのです。

●Wikipedia

●Wikipedia

●Wikipedia

●国立国会図書館デジタルコレクション

日本橋――「文化」と「知識」の交差点

「蔦屋重三郎」と「吉田松陰」その接点とは？蔦屋重三郎が本というメディアを通して民衆に新しい知を届けたように、松陰は直接人と向き合う教育を通じて、次代を担う人材を育てました。時代も手法も異なりますが、共に「知識と思想の力」で社会に変革をもたらそうとした点で、二人の姿はどこか響き合っているようにも感じられます。

そして興味深いのは、この二人の活動や人生の節目が、いずれも「日本橋」と深く関わっていることです。蔦屋重三郎が文化の拠点とした耕書堂は、まさに書物の流通と知の発信地として日本橋に位置し、多くの出版物がこの地から世に送り出されました。

一方、吉田松陰がその志を貫いた末に命を落としたのも、また日本橋の地、伝馬町牢屋敷でした。ここで彼は最期まで思想を語り、未来の日本を託して短い生涯を閉じました。一人は民衆へ知を広め、一人は命をかけて信念を貫いた――その交差には、時代を超えた「言葉の力」が刻まれているのかもしれません。

同じ日本橋の地に、私たちホテルかずさやは創業以来135年、江戸の精神を受け継ぎながら「心和む温かいおもてなし」を大切にしてまいりました。変わりゆく時代の中で、お客様の安心と快適を守りながら、地域と共に歴史を紡いでまいります。

伝統と革新を融合し、「また来たい」と思っていただけるくつろぎの時間と空間を提供すること――それが、今も変わらぬ私たちの使命です。

ホテルかずさやから始まる 江戸・日本橋めぐり

上総屋百三　十五年の歩み

文久三年　（一八六三）　十二月二十日、初代 工藤由郎、誕生。
明治二十二年（一八八九）　九月十五日、二代 工藤誠一、誕生。
明治二十四年（一八九一）　初代工藤由郎、日本橋の上総屋旅館を買収し創業する。
明治三十五年（一九〇二）　火災のため全焼、直ちに再建し営業をつづける。
大正七年　（一九一八）　十月十一日、三代 工藤誠太郎、誕生。
大正十二年（一九二三）　九月関東大震災により旅館を全焼する。
大正十三年（一九二四）　家屋の再建が完了し、営業を再開する。
昭和十二年（一九三七）　工藤誠一、二代目社長に就任する。
昭和十四年（一九三九）　初代 工藤由郎逝去。（享年七十六歳）
昭和十八年（一九四三）　戦争激化のため一時休業。建物は三井鉱山へ社員寮として貸し出す。
昭和二十一年（一九四六）　四月、営業再開。
昭和二十三年（一九四八）　三月、除隊後復職していた工藤誠太郎は勤めを辞めて、上総屋の経営に携わる。
昭和二十四年（一九四九）　三月、株式会社上総屋旅館に組織を変更し、工藤誠太郎が代表取締役社長に就任。
昭和二十八年（一九五三）　国鉄推薦旅館（後の日本観光旅館連盟）に加盟、八月九日、四代 工藤哲夫、誕生。
昭和二十九年（一九五四）　日本交通公社（現ＪＴＢ）と送客契約を締結。
昭和三十年　（一九五五）　五月一日、工藤誠太郎、日本橋旅館組合長に就任。
昭和三十二年（一九五七）　十二月十六日、工藤誠太郎、東京都旅館環境衛生同業組合設立に伴い、副理事長就任。
昭和三十五年（一九六〇）　二代 工藤誠一逝去。（享年七十一歳）
昭和五十四年（一九七九）　上総屋旅館の旧施設解体及び新築工事開始。
昭和五十五年（一九八〇）　新館完成　ホテルかずさやオープン。
昭和五十七年（一九八二）　一月二十九日、工藤政幸、誕生。
昭和五十八年（一九八三）　五月二十一日、工藤健二、誕生。
昭和六十三年（一九八八）　五月、工藤誠太郎は東京都ホテル旅館環境衛生同業組合理事長に就任。
平成元年　（一九八九）　五月、工藤誠太郎は全国旅館組合連合会・副会長に就任。八月、工藤哲夫は常務取締役として経営に携わる。十月、ホテルのＣＩ実施、併せてニレーヌへ改名。
平成二年　（一九九〇）　十一月、工藤誠太郎勲五等瑞宝章叙勲。
平成三年　（一九九一）　九月、上総屋創業百周年。
平成五年　（一九九三）　八月、工藤哲夫、四代目社長に就任する。
平成二十七年（二〇一五）　四月、三代 工藤誠太郎逝去。（享年九十六歳）
平成三十年　（二〇一八）　六月、かずさやは新築工事のため、営業を休止。
令和二年　（二〇二〇）　六月、新ホテルの竣工。工藤哲夫は東京都ホテル旅館生活衛生同業組合理事長に就任。七月、新ホテルのオープン
令和三年　（二〇二一）　上総屋創業百三十年。
令和五年　（二〇二三）　十月、工藤哲夫旭日双光賞叙勲。
令和八年　（二〇二六）　九月、上総屋創業百三十五年。

初代

工藤 由郎（文久三年十二月二十日生まれ）

二代

工藤 誠一（明治二十二年九月十五日生まれ）

三代

工藤 誠太郎（大正七年十月十一日生まれ）

四代

工藤 哲夫（昭和二十八年八月九日生まれ）

●大浴場

●デラックスツイン

●ホテル外観

HOTEL KAZUSAYA

「ホテルかずさや」は、「江戸」の伝統美
「四十八茶百鼠」を活かした落ち着いた空間で、
お客様をおもてなしいたします。

●ロビー

※お料理はイメージです。

食堂酒菜

時の鐘

Japanese Restaurant

TOKI-NO-KANE

レストラン「時の鐘」は、今の日本橋で
「江戸」の活気、賑わいを「食」を通して
楽しんでいただく空間です。

あとがき

令和八年（二〇二六年）に創業百三十五年を迎えられることは、
これまでご愛顧頂きましたお客様のお陰と深く感謝申し上げます。
明治、大正、昭和、平成、令和と時代は進み、上総屋のみならず、
日本橋の街も大きな変化を遂げました。ホテルかずさやは、
時代の変遷を感じつつ、また将来を見据えて新しいサービスを考え
時代の要請に答えてまいります。
どうか、これからも末永くご愛顧を賜りますようにお願い申し上げます。

ホテルかずさや 令和の経営理念

ホテルかずさやは、江戸の伝統を引き継ぎ、
創業百三十五年。
私たちは、創業精神の「心和む温かいおもてなし」を
モットーに、今の時代が求めている、
安全、清潔、快適なサービスを提供し、
お客様の満足と幸せ、社員の成長と喜びを通じ、
社業の発展と地域社会の繁栄に寄与します。

ホテルかずさや　四代目社長　工藤 哲夫

●現在の「ホテルかずさや」外観

ホテルかずさや
創業百三十五年記念誌
発行者：株式会社上総屋旅館
代表取締役 工藤哲夫
発行日：令和7年9月吉日
発行部数：3,000部
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

繪草紙店
村書堂